

## 壁を持たない空間における変容可能性

日大生産工 ○大槻 瑞巴 日大生産工 古田莉佳子  
日大生産工 広田直行

### 1. 研究の背景と目的

#### 1-1. 背景

公共施設において、多様化する市民ニーズに対応するため、予約の有無・所属団体・年齢などによる制限のないフリースペース、オープンスペース、会議室等が設けられる。近年、少子高齢化による人口減少で公共施設の集約・複合化の動きが高まっている中、機能に縛られず自由に活動できるフリースペースは、利用者間の交流を深め、市民活動の支援に重要であると考えられる。

#### 1-2. 目的

無漏田らによる「市民活動支援施設におけるフリースペースの利用形態 市民活動の拠点施設に関する研究 その 1」(2004)では、利用実態の調査を行い、利用者の滞在時間と活動に応じたレイアウトの変更状況について明らかにしている。また、フリースペースの計画について、多様な家具の設えやイベントへの対応、施設へ入りやすい雰囲気づくりの重要性を課題としている。

「多摩ニュータウンのコミュニティセンターにおけるフリースペースの利用実態に関する考察」2003年では、雑談や休憩のために施設のフリースペースの使用を目的とする利用者の存在を明らかにしている。

オープンな構成で多様な市民活動を許容し、気軽に利用できることがフリースペースの目標と仮定した場合、壁面を減らして平面的、視覚的に開かれた状態が望ましいと考える。特にフリースペースと屋外空間の一体的な利用は市民活動の幅を広げ、利用目的のない人の利用を促すことができる。

既往研究のいずれも対象となった施設のフリースペースの事例はエントランスとロビーと廊下を兼ね、隣接した会議室等の諸室とは壁で区切られている。

そこで本研究では、壁面が少なく、内外を一体的に利用できるフリースペースを持つ公共施設を対象とする。そこで実際に行われている市

民活動と空間の変化について調査し、今後の施設の在り方について考察する。

### 2. 調査概要

#### 2-1. 調査対象

対象施設は「まちなか交流広場 ステージえんがわ」を対象とする。施設の概要をFig.1に示す。長手39mの切妻屋根に1220ピッチの木柱と木製サッシが並ぶ全天候型広場である。トイレ以外に壁面がなく、トンネルのように連続した空間が外までつながっている。屋内外を仕切るサッシは折れ戸または開き戸になっており、開放して軒下空間と一体的に利用できる。

敷地に防犯用フェンスがなく、また、公共施設のため軒下と屋外は24時間利用が可能。機能は施設中央に配置されたキッチンとその客席を兼ねたフリースペースのみとなっている。

所在地の新潟県三条市では、スマートウェルネス三条として高齢者の外出、他者との交流機会の創出ための環境整備を行っている。

複合施設「まちやま」はその取り組みの一つとして設置された。「ステージえんがわ」はその施設のうち屋外広場として計画された。イベント会場、休憩場として利用され、年間を通して様々な市民活動が行われている。

施設開設の翌年に三条市は「NPO 法人えんがわ」を設立し、ステージえんがわの利用促進に関する事業等を行っている。2020年度は延べ約100人の従事者数、計54回の企画事業を実施するなど、施設を利用した市民活動を積極的に行っている。

Fig.1 対象施設概要

調査対象施設	ステージえんがわ	
所在地	新潟県三条市元町11番6号	
開館年月	2016年2月	
会館時間/休刊日	9:30~22:00	
	第3月曜日、毎月末日、年末年始	
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設「まちやま」の一施設</li> <li>・カフェ、屋根付き広場</li> <li>・多目的な利用を想定した建築物</li> </ul>	
収容人数	50名	
延べ床面積	277.62㎡	
利用料金	一般料金	営利目的での利用料金
	0円/時間	10円/時間 (1㎡あたり)
設備	音響	調整卓
		マイク/有線: 3
	視聴覚	移動スクリーン: 1
	その他	机 椅子

## 2-2. 調査方法

まちなか公式ホームページのイベント欄にて、ステージえんがわにカテゴリ化されたイベントのうち詳細が残っている、かつ実施済みである2022年11月13日から2023年10月1日までの87回の活動を対象とし、市民活動について調査を行う。

また、ホームページから実施時のレイアウトを図化して活動の特性と実施場所について考察する。また、補足的に非イベント時の利用方法についても分析し、フリースペースの活用事例の調査を行う。

## 3. 調査結果

ステージえんがわにて行われたイベントの内容を、それに近い行為にカテゴリ化してまとめて表にした(Fig. 2)。また、活動に利用された場所を大まかにゾーニングした(Fig. 4)

木材加工を目的とした活動は同じイベント名で複数回開催されているため、「製作」カテゴリとは別の「木工」として分類した。

実施回数の多かったイベントのジャンルは同一のイベントが複数回開催されていた。これらのイベントは施設内備品で活動が可能なものが多くみられた。また、運営主催はNPO法人が行っていることがわかった。

「木工」, 「製作」カテゴリ等の材料を必要

とするイベントでは参加費と事前予約を行う必要があるものが多く、利用目的のない人が当日に立ち寄って参加することができない活動であった。

イベント例	カテゴリ	実施回数 (2022/11/13 ~2023/10/01)
家庭でもできるそば打ち体験	調理	5
えんがわあむこて	手芸	12
ハーブティーとわたしじかん	雑談	11
焼き芋の日	季節行事	4
毛糸でクリスマスオーナメントづくり	製作	7
えんがわエアリアル	運動	18
プロがちょっと教えるシリーズ	フラワーアレンジメント	4
えんがわハーモニー	音楽	7
イラスト体験教室	絵画	3
木工教室・木育体験	木工	9
はじめてのフランス語	学習	3
本と珈琲とカリンパと	本	4
計		87

Fig.2 行われた活動とその分類

87回行われたイベントのうち、実施回数の多かった「運動」と「手芸」、屋外を利用する「季節行事」、レイアウトに特徴がみられた「音楽」の四つをレイアウト例として取り上げ、それぞれを平常時(Fig. 3)と比較した。

平常時(Fig. 3)には半屋外の縁側や座席に座る、カフェで食事をする、PCで個人的な作業をするなど、休憩と食事を主とした利用がみられた。

運動イベント時(Fig. 4)では半屋外で架構にハンモックを吊り下げてヨガ運動を行っていた。平常時と比較して、折れ戸を解放して空間を広く利用するといった変化が見られた。参加人数を5人に制限しているが、架構に吊り下げて行う活動のために場所と人数が限定されると考えられる。

手芸イベント時(Fig. 5)では屋内で手芸を少人数で行っていた。運動イベント時同様レイアウトに変化は見られなかった。Fig. 5はキッチン側で行っているが、同一イベントを西側の半屋外でも実施していた。当日の入退室が自由なイベントで、机と椅子があれば活動できる。そのため、場所を固定せず規模と人数に応じて活動場所を自由に変えているものと考えられる。

季節行事のイベント(Fig. 6)では敷地外の利用が見られた。(Fig. 6)は定期市が開かれたときの

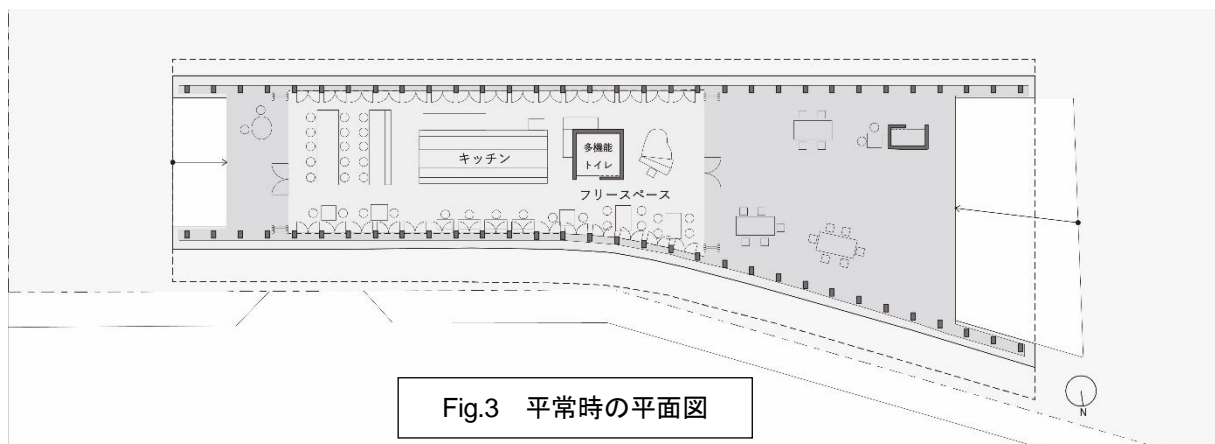


Fig.3 平常時の平面図

レイアウトである。施設前の歩道で備品の旗立石を用いてパラソルを立て、市場を開いていた。

また、施設開設の周年祭、雪遊びのイベントなど、地域住民間の交流を目的とした活動も行われていた。夏に行われた季節行事では屋外サッシと折れ戸を開いて屋内外を一体で利用していた。

音楽イベント時(Fig. 7)では西側半屋外で実施された。当日入退出自由な活動であるため、休憩目的の利用者も参加できる。

(Fig. 7)は笛で演奏する際のレイアウトである。奏者に対して扇形に座席を配置し、折れ戸を閉じて内と外を分けた。別の音楽イベントでは、備品のピアノを利用していた。少人数の場合は折れ戸を閉じ、大人数の場合は折れ戸を開いて利用者の人数増減に対応していた。いずれも西側の屋内、半屋外で行っていた。

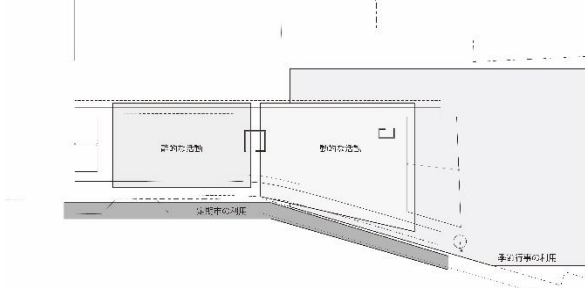


Fig.4 開催された活動の位置

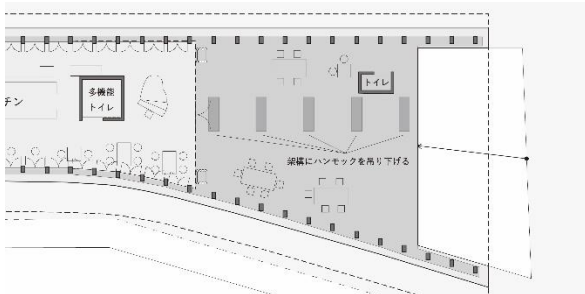


Fig.5 運動イベント時のレイアウト例

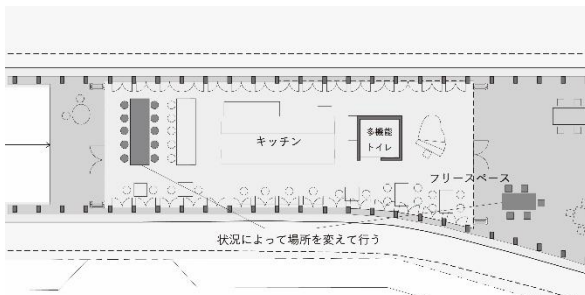


Fig.6 手芸イベント時のレイアウト例

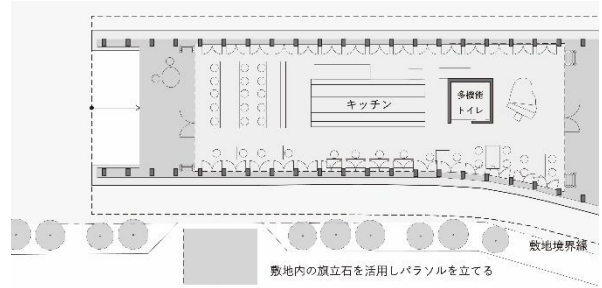


Fig.7 季節行事のレイアウト例

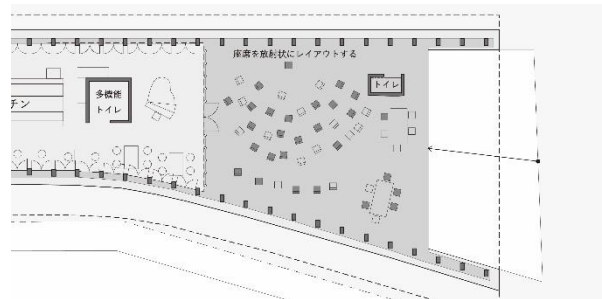


Fig.8 音楽イベント時のレイアウト例

#### 4. 考察

運動、音楽を目的としたイベントを行う場合は西側の屋内、半屋外空間を利用している。反対に、手芸を目的としたイベントは東側の屋内を主に利用しており、動的な活動と静的な活動でイベントの開催場所を分け、東西で大まかなゾーニングを行っている。

桁行39m、梁間約6mの細長い平面であるため、距離で活動内容のゾーニングを行ったと考えられる。また、中央にキッチンとトイレブースを配置して通路部分を作り、動的な活動の場までの距離を取っている。通路と距離のゾーニングによって空間に間仕切り壁やパーティションを設けずに市民活動の場所をわけ、空間機能を変容している。

折れ戸、サッシを利用して屋内から屋外まで空間を連続させることで、屋外を利用した活動の場合でも人数と規模の変化に対応している。施設機能を明確に定めないことで屋内を屋外にすると空間の変化を可能にしていると考えられる。

人数に応じて空間を変更させずに参加人数をあらかじめ設定しておくことで、施設の空いているスペースを利用して活動するケースも見られる。製作、調理等の材料が限られている活動の場合は後者のケースが多く、屋外を使った活動であっても人数の増減に対応しづらいデメリットがある。

よって、空間に占めるフリースペースの割合を増やすことによって活動のフレキシビリティを高めることができるが、活動内容に制限があ

る場合は市民の自由な参加に繋がりにくいと考えられる。

季節行事として行われた市場の敷地外の利用は施設における「営利目的での利用料金」の設定が関係していると考えられる。一方で、市場での活動に施設備品の旗立石を利用していることから、施設前の歩道の利用を認識していると考えられる。

本施設で行われた活動のほとんどが「NPO法人えんがわ」により行われている。建築雑誌 作品選集2019では、『年間を通じた稼働率がほぼ100%』とされているが、平常時の利用の多くが休憩を目的とした利用を考慮すると、曖昧な空間機能を活用している「NPO法人えんがわ」の影響は大きいと考える。

フリースペースは、それを活用する活動団体によって地域コミュニティの核となる可能性があると考えられる。特に音を出すような動的な活動は地域住民への理解と合意が必要である。

今回の調査では市民活動をHPにより調査したが、HPの掲載期限等で記載のなかった2022年11月13日以前の市民活動、「まちやま」との施設利用の関連についての調査を今後の課題とする。

## 5. まとめ

「ステージえんがわ」では、内外を分ける壁面を設けず開閉可能なガラスで覆うことで屋外の活動を屋内に取り込む、反対に、屋内の活動を屋外に発信している。また、人数、活動内容に制限されにくい施設であることがわかった。人数が集まる、音が出る市民活動に対し、地域住民への理解と合意形成が不可欠であり、施設内外で行う活動に影響していると考えられる。

フリースペースでの活動を、NPO法人等に活動業務を委託することで市民の施設利用目的を創出し、市民活動の促進と積極的利用が期待できる。NPO法人が主催する市民活動を地域住民主体の活動に置き換えていくことが今後の課題になると考えられる。

## 6. 参考文献

- 1) 建築雑誌, 増刊, 作品選集, 2019.3, pp.130-131, 日本建築学会
- 2) 新建築 2016年7月号, 2016.7, pp60-67, 新建築社
- 3) まちなか交流広場 ステージえんがわ, 著:手塚建築研究所, 参照日:2023, 10, 01, URL : <http://www.tezuka-arch.com/works/store/machinaka-kouryu-hiroba-stage-engawa/>
- 4) 三条市まちやま ステージえんがわ, 著:新潟県三条市元町, 参照日:2023, 10,

01, URL:[https://sanjo-](https://sanjo-machiyama.jp/stageengawa/)

[machiyama.jp/stageengawa/](https://sanjo-machiyama.jp/stageengawa/)

- 5) 空間デザイン事例 まちなか交流広場「ステージえんがわ」 ヒト・コト・マチをつなげていく「縁側」, 参照日:2023, 10, 01, 著:JDN, URL:<https://www.japandesign.ne.jp/space/engawa/>
- 6) まちなか交流広場ステージえんがわ | 新潟県の有名建築 | 住宅/ビル/マンション設計者の建もの探訪, 参照日:2023, 10, 01, 著:片岡直樹, URL:<https://www.naokikataoka.com/2018/04/14/engawa/>
- 7) 木下誠一, 今井正次, 「市民活動支援施設におけるフリースペースの利用形態 市民活動の拠点施設に関する研究 その1」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)2004年8月, pp171-172
- 8) 松生明子, 登張絵夢, 上野淳, 「多摩ニュータウンのコミュニティセンターにおけるフリースペースの利用実態に関する考察」, 日本建築学会大会梗概集(東海)2003年9月, pp285-286
- 9) 無漏田芳信, 池田妙子「市民活動センターの平面構成要素---都市における市民活動拠点施設と施設運営に関する研究・その11---」, 日本建築学会中国史部研究報告集, 第26巻, pp673-676, 2003年3月
- 10) 2020年度事業報告書等, 特定非営利活動法人えんがわ, 参照日:2023, 10, 01, URL: <https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/document/015000867/hokoku/2020700/2020>